



今月の予定

聖歌練習

名古屋:8月14日代式後

- ・初心者の方、自信のない方のための基礎練習
- ・主日聖体礼儀後、ワンポイントレッスンを行います。
- ・毎主日朝、発声練習をしています。ご参加よろしく。

半田:今月はお休み

名古屋指揮当番

7日ピーメン松島 21日エレナ広石 28日マリア松島

ズナメニイ研究会

8月19日(金)変容祭聖体礼儀後。

グレゴリオチャントが西洋宗教音楽の原点であるように、ズナメニイはロシア聖歌の原点です。ズナメニイを知ることによってビザンティンとの連続性をとらえ、合唱音楽へと発展したロシア聖歌の底にある正教会聖歌の本質をさぐります。また日本語でズナメニイを歌ってみて、古聖歌の魅力を感じてみます。

<http://www.orthodox-jp.com/liturgy/Znameniy/chant.htm>

知って祈ろうー奉神礼・聖歌入門

トロパリとコンダクーその日のテーマソング

トロパリとは単節の短い歌の総称で、「聖なる神」「神の独生子」晩禱の「聖にして福たる」カノンの中に組み込まれて読まれる讃詞も詩形としては、すべてトロパリに含まれます。最も古いトロパリと言われるのが「聖にして福たる」で3世紀頃から歌われていたとされます。トロパリは単独で歌われるほかに、聖詠と組み合わせて歌われることもあります。(第3アンティフォン、パスタの祈禱の始まり)

さて、通常トロパリと呼ばれているのは『発放トロパリ』(希アポリティキオン)で、その日に記念される最重要テーマを歌った歌です。

発放トロパリ:「発放」とは「出て行く」ことを言います。晩課が早課に続く単独で歌われる場合に、晩課の最後に歌われるトロパリです。同じトロパリは早課の始まりと後半の重連禱の前、聖体礼儀の小聖入後に歌われ、各時課でも読まれます。

ちなみに礼拝の最後の司祭の祝福をほかの連禱の祝文の『高声』と区別して『発放詞』と呼びます。

主日の場合は「復活」がテーマですから、八つの調の復活トロパリの中から、その週の調の復活トロパリが歌われます。祭日の場合は祭日のトロパリが歌われます。

コンダクは6世紀に発達した長い詩ですが、後に縮小され、トロパリと同じような短い詩として扱われ、聖体礼儀ではトロパリに続いてその日のコンダクが歌われます。

難しいのは主日と祭日が重なる場合の組み合わせで、主の祭日の場合は主日と重なっても、祭日のトロパリとコンダクが優先して歌われますが、生神女の祭日、聖人の祭日が日曜日と重なった場合には主日の要素が優先し、「復活トロパリ」「祭日のトロパリ」(その聖堂のトロパリ)「復活コンダク」「祭日コンダク」となります。厳密に言うと、その聖堂の名が何に捧げられているかによっても順番が異なってきます。ロシアでは『奉神礼の手引き』Богослужebные указанияに組み合わせの方法が載っています。

日本では一般的に、主日コンダクや聖堂のトロパリは省略され、代わりに聖ニコライのトロパリが歌われています。



生神女就寝祭が日曜日に重なる場合のトロパリの組み合わせ。今年の8月28日の場合

ロシアの『奉神礼の手引き』Богослужebные указания 2011によると

- ①「復活トロパリ」2調
- ②「生神女就寝祭のトロパリ」「光栄は～」
- ③「生神女就寝祭のコンダク」「今も～」
- ④「復活コンダク」2調

ホームページのご案内

○「なごや聖歌だより」のホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。

○ 東方正教会の聖歌 <http://www.orthodox-jp.com/maria>

詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

○ 正教会奉神礼研究 *Liturgia*



聖歌の伝統 J.V. ガードナー著
「ロシア正教会の聖歌」から

ガードナーの『ロシア正教会の聖歌』は世界中で広く読まれている正教会聖歌の入門書です。ここでは現代日本の状況に合わせて適宜省略、解説を加えてご紹介しています。表はカリストス主教のFestal Menayonを参考にしました。

早課 3. 特別な早課 聖大金曜日（十二福音）

早課の特異型ともいえる特別な早課をご紹介します。聖大金曜日、聖大土曜日、復活祭には特殊なドラマティックな早課が行われます。いずれも古い起源を持ち、聖大金曜日の早課はエルサレムで行われていた「受難の地を巡礼する祈祷」が始まりと言われています。聖大金曜日の早課は、大詠頌を歌わない平日早課の形の中に、15のアンティフォンが3つずつ小連禱とセットになって挿入されています。3つのアンティフォンと小連禱はビザンティンの街でしばしば行われていた行進の祈りです。通常の早課に15のアンティフォン、セダレン6個、三歌経の3歌頌、真福詞のスティヒラなど多くの歌が加えられています。12の福音の読みの合間に変化に富んだ調と形式で歌われ、非常に厳粛な性格が付与されています。奉神礼上の象徴的な動作は聖歌にも反映しており、参拝者の持つろうそくの光によってさらに高められます。

1. 通常の始まりと六段の聖詠、**大連禱**
2. 「主は神なり」のかわりに「**アリルイヤ**」をリフレインとして特別なメロディで両詠隊が交互に歌う。**トロバリ**も同様。**小連禱**
3. **第1福音**
4. **第1アンティフォン** 8調 各スタンツァに先立つ句がある。2回歌う。（各詠隊1回ずつ）
第2アンティフォン 6調
第3アンティフォン 2調と**小連禱**
5. **セダレン** 7調、司祭が炉義するあいだは会衆起立。
6. **第2福音**
7. **第4、第5、第6アンティフォンと小連禱**
8. **セダレン** 7調
9. **第5福音**
第7、第8、第9アンティフォンと小連禱、セダレン
第10、第11、第12アンティフォンと小連禱、セダレン
第13、第14、第15アンティフォンと小連禱、セダレン
10. **第6福音**
11. **真福詞**（マトフェイ5:1-12）4調の特別なスティヒラ4句が山上の垂訓の詞のなかに挿入される。両詠隊が交互に歌う。**小連禱**
12. **ポロキメン**
13. **第7福音**
14. **第50聖詠誦読**
15. **第8福音**
16. **聖大金曜日の三歌経のカノン** 6調、**第5歌頌**から。イルモスは2回繰り返す。各**トロバリ**は二つ。6回 各歌頌の終わりにイルモスをカタワシヤとして繰り返す。**小連禱**
17. **コンダクとイコス**、歌うまたは誦する。
18. **三歌経のカノン第8歌頌、第9歌頌**。「我が心は主を崇め」magnificatは歌わない。各歌頌に**トロバリ**4つ。
19. **エクサポスティラリ** 3回歌う
20. **第9福音**
21. **讚揚歌**（第148、149、150聖詠）3調。
小祭日の早課と同様に6スティヒラを挿入して歌う。
22. **第10福音**
23. **詠頌**を誦する。（大詠頌を歌わない早課と同様）
24. **増連禱**
25. **第11福音**
26. **挿句のスティヒラ**6つ、カノナルフ形式*で歌う。
27. **第12福音**
28. **聖三祝文、至聖三者、天主経**、誦する。
29. 特別な**トロバリ**4調を歌う。
30. **重連禱**
31. 終わりのやりとりと発放（一時課は読まない）

*カノナルク形式：先導者が祈祷文をまっすぐに読み、聖歌隊（聖歌者）がメロディをつけて同じ祈祷文を歌う。